

めぐニュース

かぐめよし少年自然の家だより 平成25年3月発行 年度末号

平成25年度もどうぞよろしくお願いいたします。

いちねんかんをふりかえって

皆様には日頃よりかぐめよし少年自然の家をご利用いただき、心から感謝申し上げます。

かぐめよし少年自然の家は、平成24年4月より、指定管理者制度に移行し、私たち玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体が所長をはじめ所員8人で運営をしています。4月に開いた「開所式」では、初代所長の『くまごろう』こと本村義雄氏からメッセージや地域の方々、少年団の方々など、たくさんの皆様に励ましのお言葉をいただき、心強く歩みだしました。

当所は、北九州の最高峰である福智山の懷に抱かれ、そばには紫川の清流が流れています。この豊かな自然を活用した様々な体験活動を通じて、主に子どもたちに、『「友情」「協力」「奉仕」「規律」の四つの心を育む』ことがかぐめよし少年自然の家の最大の目的です。

この一年間、小学校の自然教室、中学校のふれあい合宿、子ども会やスポーツ少年団、そして家族など、多くの皆様に、この自然を活かした集団宿泊活動でご利用いただきました。

また、主催事業では、『紫川大冒険』を復活させました。子どもたちと紫川起点から河口までの22.4キロを5泊6日でキャンプをしながら、川の中を歩き、泳ぎ、カヌーを漕ぎ海まで到達しました。

このように、多彩な自然体験活動も、お陰様で無事に実施することができました。新年度も、人間関係づくりの場、子どもたちが「生きる力」を身につけていくための野外体験活動の場として、皆様方の期待に応えるよう、職員一同、努力してまいりますので、なお一層のご愛顧のほどよろしくお願いいたします。



かぐめの夏は『紫川大冒険!』



2012年の夏は、『山、川、海そして「自分」をのりこえろ!』をテーマとして、北九州市を貫流する紫川22.4キロを踏破しました。

かぐめよし少年自然の家、ます湊公園、旧道原小学校、すがお小学校、紫川河畔公園とキャンプしながら「紫川起点」からゴールの「海の橋」を目指しました。参加した15名の団員は、はじめの頃は慣れない活動、キャンプ生活に戸惑いもありましたが、日が経つにつれて、どんどんたくましくなっていました。滞在型のキャンプと違い、歩かねばならない、漕がねばならない、「移動型」キャンプの大きな成果でした。

子どもたち、そしてスタッフにも感動の6日間でした。『キャンプっていいね!』

歩く! 泳ぐ! 漕ぐ!

やっぱり『紫川』ですね☆☆ 緑の山に囲まれ、きれいな紫川はかぐめよしの魅力!! かぐめよし少年自然の家横の紫川河畔は、幼児や子どもたち、そして大人の方にもとっても人気が高かったです。川遊びや・沢登り・魚釣り・河原でキャンプをしたい、夏は是非かぐめよしの遊びに来ませんか?



秋は黄色いじゅうたん



かぐめよしの秋は、紅葉がとってもきれいです。キャンプ場やサイクリングロードはイチョウの葉っぱの黄色いじゅうたんでいっぱいです。秋の主催事業は、ファミリーキャンプやますぶちダムウォーク、石窯パン作りなどを開催しました。最近では、買えば何でも手に入る時代なので、自分でものを作ること（作る必要）があまりなく、様々な体験をしたことのない子どもたちが増えていようです。そこでかぐめよしでは、ものづくりの一環として、MYぼしや、自然木を使ったボールペン作りなどのクラフトにチャレンジしてもらいました。親子そろって、一生懸命に取り組んでいた姿がとても印象深く、素敵だなと感じました。



寒～い冬！かぐめよし！！

かぐめよしの冬は、朝と晩は気温－4℃を下回るほど、とても寒い日が続きましたが、寒さに負けず、主催事業では、「クリスマスリースとピザ」「餅つきとしめ飾り」「陶芸教室」などを実施しました。自分が作った作品を嬉しそうに持って帰っていたのが印象的です。自分で作ったものには愛着がわくものですね。アンケートには、「家族で協力して一つのものを作れたのでとても満足しています。」など満足度が高く、『親子』って素晴らしいな…とつくづく思いました。



かぐめよし所員の小説

舞い上がった話！

～隊長～

ちょっと前の話になりますが、源流探検のコースを整備に行った時のことです。荒れた道を整えつつ最後の急な下り坂を降りていました。先頭はケンタ、次に私が。大きな広葉樹の根を跨ごうとしたその時！足元に大きなキノコの株が…。ケンタは一顧だにせず降りていきました。私の頭には『？？？？』マークが…。これはカワラダケかその仲間に相違ない…が、でも、えっ、もしかして舞茸？そんなはずは！？と思いつつ一片を手にとって匂ってみると、舞茸の香りが！！一人舞い上がる私を冷たく見つめる他の所員。大きな株を両手に持ち、ケンタの両手も借りて足取りも軽く帰路に。ポンポコさんは「大丈夫か、毒キノコじゃないのか」という始末。私がいくら美味しいと力説しても、食べるなんてとんでもないと誰も貰い手もない。

近所の椎茸栽培をしているキノコの専門家に鑑定をうけることに。あいにくご主人は留守で奥さんに尋ねてみるも、多分舞茸……。と何とも心もとない返事。大きな株をひとつさしあげましょうと申し出るも固辞される始末。結局、ご主人が帰ってきて『間違いない！』。『この山で天然の舞茸を見るのは初めてだ。宝くじに当たるより難しいぞ！！』と一緒に舞い上がってくれました。

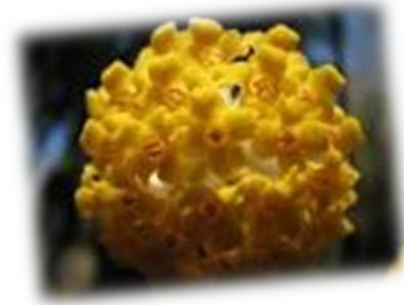
そしてこんなに沢山の舞茸をどうやって食べようかと思案していると、ポンポコさんがおもむろに「一つもらって帰ろうか…。えっ！あんなに毒キノコ呼ばわりしておきながら食べるの？」「隊長が間違いないって言っても信用ならんが、専門家がいうなら間違いないだろうって」…。やっぱり信用なかったんだ！？。この話をするたびに、何回同じ話をするのかとポンポコさんに怒られました。多分、また怒られるだろうけどこの一年でちょっと面白い話といえはこの話ですな！！

舞茸は天ぷら、炒めもの、吸い物、炊き込みご飯とおいしくいただきました。



頂吉図鑑 ～第1回～

みつ また 三 極



記念すべき第1回目にご紹介するのは三極です。かぐめよしに馴染みの深いこの花は、春のお彼岸前後に黄色の萼がかわいらしい花を咲かせます。ほのかに甘い香りを漂わせるのは沈丁花の仲間のしるし。三極の名前の由来はご存じのとおり枝が三つに分かれることから。企救郡誌によれば頂吉の集落は昔、紙屋地区と呼ばれていたそうで、紙すきの集落だったようです。今でも、幼いころ紙屋のボンと呼ばれていた方がいらっしゃいます。言い伝えでは、所の東に位置する少年山はお殿様に献上される紙の材料、三極、楮こうぞが栽培され、通常の立ち入りを禁ぜられていたことから「お留め山」という名が伝わっています。そんなわけで、紙が漉かれなくなってからも三極、楮が多くみられる地域なのでしょう。山道を歩いていると林縁に黄色い玉が宙にいくつも浮かんで見える姿は幻想的です。この時期のかぐめよしに三極を見にいらっしゃいませんか？

主催事業のお知らせ

～4月から6月～

	事業名	時期	対象者・人数
5月	春の福智山登山	5月5日(日)	小中学生とその保護者 定員：30名
	第1回紫川博物館	5月18日(土)～19日(日) 1泊2日	小中学生とその保護者 定員：30名
6月	かぐめふるさと交流	6月1日(土)～2日(日) 1泊2日	家族 随時登録可能 定員：10家族
	第2回紫川博物館	6月8日(土)～9日(日) 1泊2日	小中学生とその保護者 定員：30名
	水辺のレスキュー講習会	6月23日(日)	18歳以上 定員：20名

※申し込み方法につきましてはお問い合わせください。内容は変更することがありますのでご了承ください。



北九州市立かぐめよし少年自然の家

住所：〒803-0267 北九州市小倉南区大字頂吉451-1

電話：(093)451-3111 fax：(093)451-3133

ホームページ：<http://www.kagumeyoshi.com/>